り、長期の闘病生活から帰らぬ人となった。私の悲しみや寂しさは何処にぶつければいいのか、それは加害者を恨み、憎み、殺したいという思いに変わり、44年間私を苦しめた。加害者は幸せに子や孫に囲まれているのかと思うと、私の苦しみは募るばかりであった。過去のトラウマを抱えながら、私は心理療法上の道を歩んだ。

私の最初のカウンセリングに3歳と6カ月ぐらいの赤ちゃんを連れて相談に訪れた36歳の女性がいた。彼女の相談内容は、夫が事故を起こし、1億2千万円の賠償金が必要と言われ、「自分には金も財産もない、生きることにも疲れた。だから子どもと一緒に死にたい」と言うものであった。私はその時、目の前の彼女の顔に、母を死に追いやった加害者男性の顔が重なって見えた。「被害者の気持ちがあなたにわかるものか」と心の中で叫んでいる自分がおり、彼女の

ことを理解する気持ちになれなかった。その時、3歳の男の子が「ねえ、おばさん、おばさん」と満面の笑みで私に声をかけて来た。その時の私の顔は、きっと鬼のような顔になっていたのでしょう。我に返って目の前の家族の姿を見て、「何と残酷なことだろうか。被害者も加害者もみんな苦しんでいる」という事を学んだのである。この事を通して、私は44年前の加害者の男性を心から赦してあげよう、という気持ちになった。44年間、母の事で泣くことを忘れていた私であったが、その時は溢れてくる涙を止めることは出来なかった。今尚自然と涙が出て心を浄化している。このような悲惨な事故はもう二度と起こしてはいけない。また、この世の中から飲酒運転や交通遺児が無くなることを願い、生きている限り使命として、私は飲酒運転根絶に取り組んでいくつもりです。